

第6回常磐公園改修事業基本計画検討懇談会
・緑の計画(案)について

平成24年2月2日(木) 13:30～

旭川市職員会館 2階 3号室

旭川市土木部公園みどり課

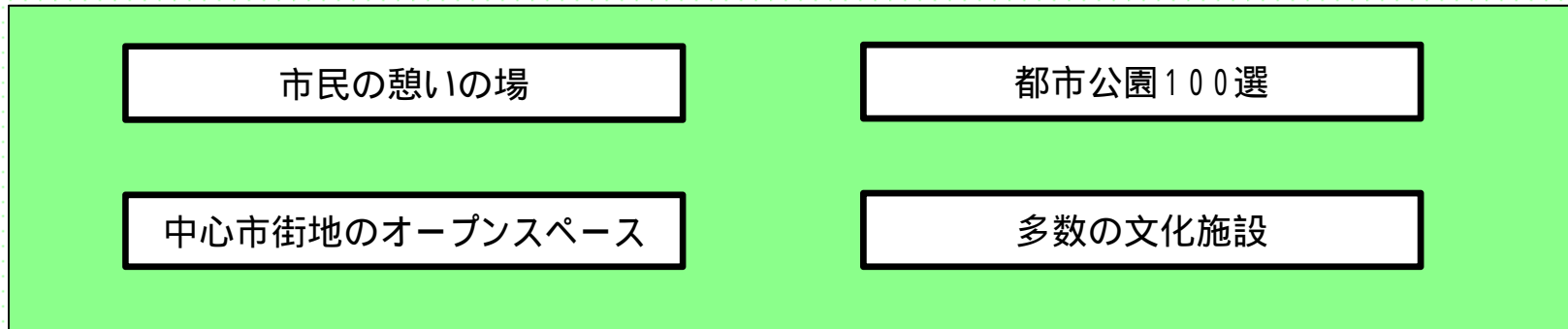
スケジュール(案)

- 第6回 常磐公園改修事業基本計画検討懇談会**
2月2日
 - 緑の計画(案)について
 - 立木調査データと緑の計画構成確認
- 第7回 常磐公園改修事業基本計画検討懇談会**
3月上旬
 - 緑の計画(案)について
 - 緑の計画素案内容確認
 - 市民アンケートについて
 - 市民アンケート内容の確認
- 市民アンケート**
3月中旬～下旬
 - 常磐公園の緑の計画に関するアンケート調査
- 第8回 常磐公園改修事業基本計画検討懇談会**
4月下旬
 - 緑の計画(案)について
 - 市民アンケート報告, 計画内容の最終確認
 - 常磐公園改修事業基本計画(案)について (河川空間ぬき)
- パブリックコメント**
5月中旬～6月中旬
「常磐公園改修事業基本計画」(案)
(河川空間ぬき)

- 第9回 常磐公園改修事業基本計画検討懇談会**
7月上旬
 - 常磐公園改修事業基本計画について (河川空間ぬき)
- 7月 「常磐公園改修事業基本計画」策定 (河川空間ぬき)**
- 河川空間検討の別ステージ**
 - 構成 : 関連する分野の専門家で構成
 - 内容 : 常磐築堤の緩傾斜化に伴う樹木保全
- パブリックコメント**
「常磐公園改修事業基本計画」(改定案)
(河川空間)
- 「常磐公園改修事業基本計画」改定 (河川空間含む)**

1. 緑の計画の目的

常磐公園の特徴



緑の計画の目的

今ある風景を保ち、これからも変わらず市民の憩いと安らぎの場所であり続けるためには、今後どう対処していくべきか次の**100年**を見据えながら考えていく



公園の重要な要素である樹木について、その**現状と課題を明確にし**、将来における緑の量の確保や質の向上などの、**緑のあり方と方向性を示し**、緑の**計画的な更新**や、**適切な維持管理**を行っていく

上位計画

緑の基本計画
平成8年度策定・平成23年度改定

2. 都市公園の定義 ~ 都市公園とは？

公園の効果

都市部における、市民のレクリエーション、災害時の避難場所、生活環境の美化・快適化などが機能の柱

存在効果

都市構造にもたらされる効果

- ・都市の形態を規制する
- ・環境衛生に対する
- ・災害防止に対する
- ・心理的
- ・経済的

利用効果

公園利用者にもたらされる効果

- ・肉体的健康
- ・精神的効果
- ・スポーツ、レクリエーションなどによる体力の増進
- ・教養、文化、郷土意識の涵養
- ・社会性の増進、コミュニティ活動の場

都市公園の種類

機能や利用目的、利用想定者や想定区域により分類される種類は「街区公園」、「近隣公園」、「地区公園」、「運動公園」

総合公園

休息、観賞、散歩、遊戯、運動等、静的・動的レクリエーションのための各種施設が総合的に整備されている公園。
地域中心としての**広場的機能**や市街地のオープンスペースとして各種**イベントでの利用**。

- ・**常磐公園**
- ・**春光台公園**
- ・**神楽岡公園**
- ・**忠和公園**

風致公園

自然的な要素の強いものであり、美しい**自然の景色を保存**し、それを楽しむように計画された公園。ほとんどの区域が樹林や草地で覆われているか、水面を擁するかであり、園路等の人工的な利用施設が**必要最小限**設置されている。

- ・**嵐山公園**
- ・**旭山公園**

2. 都市公園の定義 ~ 公園の緑とは？

緑の機能

公園の緑は人々に安らぎを与え、街並みに調和をもたらすのみならず、**安全**で**快適**な都市生活を営む上で欠くことのできない役割を果たしている。

公園を訪れる人は、緑によって作り出される静かでうるおいのある環境の中で、休息や散策や運動等を楽しみ、心と体をリフレッシュさせ**満足感**や**充足感**を得ることができる。

維持管理の現状

時代背景と現状課題

昭和40年代後半から、公園整備が急速に進み、**早期に都市の緑を増やす**



生長の早い樹種が将来の姿を考えずに**無方針**に植えられた



・**維持管理困難**な高さまで生長
・密植状態や被圧などによる**生育不良環境**

今後の維持管理

- ・整備から管理の時代を迎え、将来を見据えた計画的かつ適切な**更新**を図る
- ・対症療法的な**最小限**の維持管理から問題の発生を**未然に防ぐ**維持管理

2. 都市公園の定義 ~ 公園の緑とは？

公園樹木のあり方

公園の樹木は、適切に管理され、**安全**に利用者が緑に親しみ、憩いを感じられる**修景施設**である

管理の基準となる視点

「**安全**」であること

公園利用者や維持管理作業者に倒木・落枝等の危険のないこと

「**健全**」であること

衰退や病気がなく、周辺樹木に影響を与えない健康な状態であること

公園樹木に、消毒や外科的処置を施すことは望ましくはない

「**自然形**」であること

適切な生息空間の中で順調に育った樹形であること

自然形の樹木を育てるためには、**適切な生長環境**をつくりだす管理と**生長後を想定**した樹木配置による更新が必要

利活用面からの視点

散策・休憩・運動などの活動のタイプから、適切な立木の**配置間隔**を定める



これらの視点から**総合的に**判断し、公園の樹木として**ふさわしいか**を見極める

2. 都市公園の定義 ~ 常磐公園の位置付け

「総合公園」としての**役割**や**機能**を踏まえ、緑や自然環境について考える

常磐公園の役割

「憩い、安らぎの場」

美しい風景や緑に触れながら、精神的な**充足感**を感じることができる場

「安全安心な場」

災害時に周辺住民の**避難地**として円滑に機能する場

「文化の場」

多くの文化施設や野外彫刻から**文化・芸術**を感じられる場

「賑わいの場」

旭川を代表するイベントが開催される賑わいの拠点となる**中心部唯一**のオープンスペース

2. 都市公園の定義 ~ 常磐公園の位置付け

常磐公園の緑に求められること

これまでの経緯と課題

常磐公園においても、戦後から高度成長期に、**早期に緑量を増やす**



生長の早い樹種が将来の姿を考えずに**無方針**に植えられた

&

堤防部分は、厳密には河川区域であり**管理区分が異なり**、十分な維持管理が行われていない

求められること

「快適、利便性」

木陰で休息したり、子どもたちが芝生を走り回ったり、緑に親しんで公園を利用できる機能
下草刈りや**落葉の除去**などの不快感を与えない維持管理と利用目的に合わせた樹木配置

「安全性」

多くの人々が安心してくつろいだり活動するために安全は最も重要な観点
樹木の**危険性の処理**や防犯面から**死角**や**暗がり**を作らない配慮

「景観」

四季の変化を豊かな彩りの草花や樹木から楽しめる機能
景観を創る樹木や草花の**生長に合わせた更新**が必要

「生態系」

自然界とは異なった、公園という環境の中で植物や鳥、昆虫と親しむ機能
公園の中でも「**総合公園**」と「**風致公園**」に求められる機能は異なる

3. 常磐公園樹木の現況と課題

立木調査判定基準

常磐公園内と公園に接する常磐築堤の樹木について、今後の維持管理のために森林相の現状把握を目的とし、個体調査を行った。

以下の判定基準から、樹木群の**将来の姿**を想定しながら、**公園樹木のあり方**に基づいた判定をした。

樹木個々の健康状態

生育空間の状態

樹木相互間の関係

樹種特性

判定結果の表記方法は以下ようになる。

- ・ は、健康状態や生息環境などから**総合的**に判断し、公園樹木として**あまり良好な状態にない**樹木。
- ・ × は、健康状態や生息環境などから**総合的**に判断し、公園樹木として**良好な状態にない**樹木。

3. 常磐公園樹木の現況と課題

常磐公園の樹木の現状

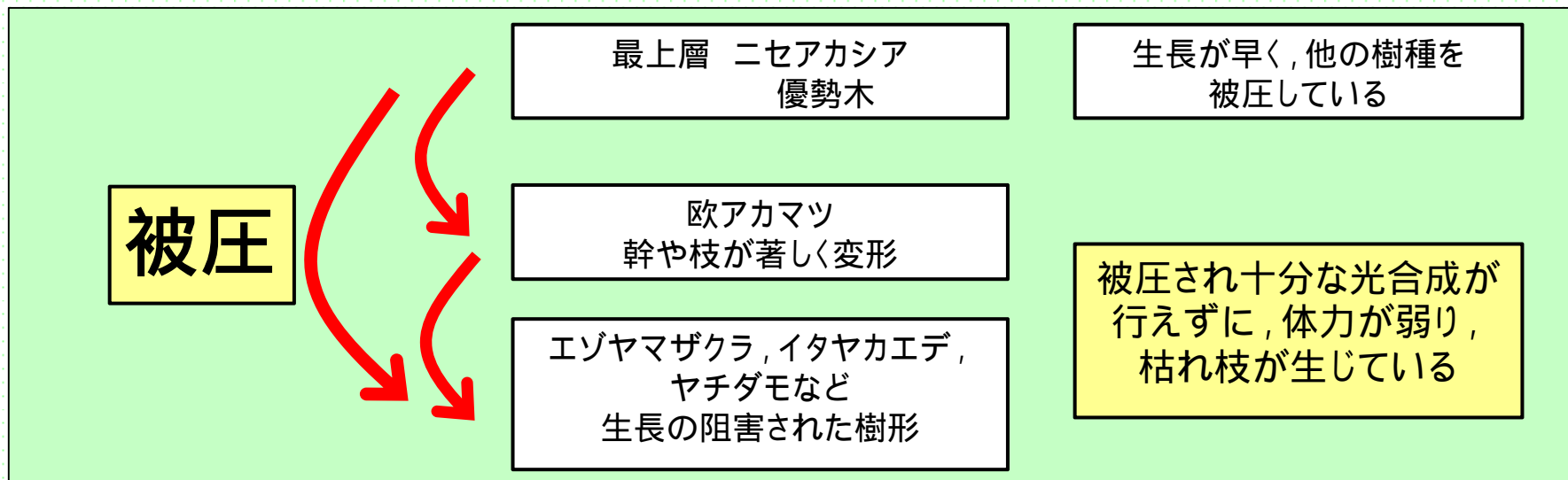
本数

85種2651本の樹木あり, 胸高直径10cm以上が約1800本

主な樹種

エゾヤマザクラ・イチイ・イタヤカエデ・ハルニレ・モミジ・欧アカマツ・ナナカマド・ニオイヒバ・マユミ・ニセアカシア

堤防付近の現況



今後の課題

- ・自然形と言えない樹形に育ってしまった生理的バランスの壊れた樹木
- ・維持管理が困難な高さで枯枝を生じてしまった樹木

3. 常磐公園樹木の現況と課題

被圧されている状況



生長の早いニセアカシアに被圧され、日照を求めて枝が斜めに生長してしまっている
「自然形」ではなくなっている

3. 常磐公園樹木の現況と課題

ゾーンごとの現況と考察

常磐公園内を主な園路で10のゾーンに分け、樹木の分布を調べた。

特に、公園内の主な緑地帯であるゾーン1～6について、「材積」という指標を用い緑についての考察をした。

材積とは... 樹木群を**体積**で表したもので、直径51cm以上の**大径木**と直径5～20cmの**小径木**が等価に扱われる本数での考え方と区別する

ゾーン1... 公園西側住宅地付近

このゾーンも含めて**住宅地との関係**は問題となる。日当たりや害虫などの問題が生じる恐れがある。

そのため、境界から30mの幅程度を「**緩衝帯**」と位置づけ、**低木のみを植栽**する区域とするなどの対策をとる必要がある。

ゾーン3... 多目的広場付近

公園内では最もhaあたりの本数と材積が少ないため、**形質の良い**ミズナラやハルニレが育っている。

これ以上**本数を増やさず**に、大きな木が広場を囲むように育てることが良い。

また、仮に高いところに危険な枯枝が生じても高所作業車を接近させて**除去作業ができる**。

ゾーン4... 公園の中央部を南北に樹木が密集する区域

大径木の材積比率が高く、大中併せて94%を占めている。大径木が多く、林冠が平で層厚になると林内照度が低くなる。そのため、林内は暗くて草本類が繁茂出来ず、枯葉が片付けられることと併せて**土壌は貧栄養**になり、また踏圧により土壌の空隙が少なくなることで根は**酸欠状態**になり、**光合成が弱まる**ため、**鬱蒼**として林床に草本の少ない状況になってしまっている。

ゾーン6... 公園北側堤防付近

森林構造が示す諸数値は最も良いが樹木の状態は**過去の管理体制**の問題もあり、良好ではない。

上層樹木に**被圧**されて中層以下の樹木は偏形し、枯木・枯枝が生じ、**樹冠は石狩川側に流れてしまっている**。

過去に**桜並木**を形成していたと思われるエゾヤマザクラは並木としての体をなさないくらいに**壊滅状態**である。

基本方針 「緑を守り育てる」

(1) 安全性の観点

常磐公園の樹木は、100年余りの歴史の中で、樹齢を重ね老朽化が進んでおり、倒木や落枝の危険性が指摘されている。

緑の量を確保しつつ、**質を高める**ためには、危険木を処理した後、後継木を育成し、バランスに配慮しながら修景のための更新木を植栽していくといった**緑の更新**と、適切な維持管理が必要。

(2) 利便性、快適性の観点から

常磐公園は、**子供からお年寄り**まで、誰もが集い、楽しく心地よい時間を過ごせる空間である。郷土を代表する多種多様な樹木が生い茂る中、木陰でくつろぎ、四季の移ろいを感じ、**安らぐ**ことができるように、適切な維持管理が必要。

(3) 景観の観点から

中心市街地の中の**貴重な緑地空間**として、また、堤防から見る石狩川と旭橋、大雪の山々の風景と一体となった常磐公園の景観は、緑量豊富な緑の存在によって支えられている。

公会堂や中央図書館、道立美術館などの文化施設や、多数の抽象彫刻が公園の緑に囲まれ、**文化的な景観**をつくり出している。

また、堤防沿いでは極めて貧相な樹相とはいえ、盛夏の散歩道には**爽やかな木陰**を落としています。これらの**景観を守る**ため、適切な樹木の維持管理を行っていかねばなりません。

4. 常磐公園の緑の基本方針

常磐公園における緑に求められる姿

< 樹種の選定に関して >

北海道や旭川周辺の郷土種や現況の樹種を活かし、旭川として誇れる風景を創出します。
冬季においても緑を確保するために、積雪等に配慮しながら常緑針葉樹をポイント的に植栽します。

四季を通じて楽しめるよう、開花・紅葉時期等を考慮しながら花木や紅葉木を植栽します。

< 樹木の配置に関して >

密植を避け、日照や通風を良くすることで、植物が健全に生長できる空間を確保します。
防犯の観点から、死角や暗がりがないような明るい雰囲気となる配植を行います。

< 樹種の選定、樹木の配置に関して >

花粉、綿毛、日照障害等、近隣への迷惑要素がある樹種や配植は避けます。
維持管理コストに負担がかからないような樹種選定や配植とします。

今後の施策の例

今回の調査データを利用して「観察木」「要注意木」などのランクを設けた樹木台帳を作成して個体管理を行い、市民とともに定期的なパトロールを行うことで市民協働で公園を守り育てていく

これらの方針に基づき、樹種の選定や配置を検討し、将来(10年～50年～100年後)に都市公園としての質の高い緑が確保されていく、更新・維持管理を進めていくことが求められる